

小 学 校

平成 2 8 年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究方法	2
1	基礎研究	2
2	実践研究	2
3	研究構想図	3
V	研究の内容	4
1	主体的な学びを実現するための「音楽的な見方・考え方」	4
2	音楽的な見方・考え方を働かせるための手だて「まなびのたね10」	4
3	実践事例	9
(1)	第2学年 題材名「いろいろな音を楽しもう」	
	【A表現】(3) 音楽づくりイ 【B鑑賞】(1) 鑑賞イ	
	[共通事項] ア(ア) 音色、リズム、強弱 (イ) 問いと答え	
(2)	第4学年 題材名「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」	
	【A表現】(1) 歌唱イ 【B鑑賞】(1) 鑑賞イ・ウ	
	[共通事項] ア(ア) 音色、旋律、強弱、フレーズ、 イ <、タイ、スタッカート	
(3)	第5学年 題材名「いろいろな楽器の音が重なり合うひびきを味わおう」	
	【A表現】(2) 器楽イ・エ 【B鑑賞】(1) 鑑賞イ・ウ	
	[共通事項] ア(ア) 音色、旋律、音の重なり	
(4)	第5学年 題材名「場面や気持ちを思いうかべて聴こう」	
	【B鑑賞】(1) 鑑賞ア・ウ	
	[共通事項] ア(ア) 音色、速度、旋律、音階や調	
(5)	第5学年 題材名「変そう曲のおもしろさを味わって聴こう」	
	【B鑑賞】(1) イ・ウ	
	[共通事項] ア(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、調 (イ) 反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係	
(6)	第6学年 題材名「曲想を生かし、思いをもって合唱しよう」	
	【A表現】(1) イ	
	[共通事項] ア(ア) 旋律、強弱、音の重なり、フレーズ イ フォルテ、<	
4	「まなびのたね10」事例一覧	21
VI	研究の成果	24
VII	今後の課題	24

研究主題

音楽的な見方・考え方を働かせて、 音楽と主体的に関わることができる児童の育成

I 研究主題設定の理由

平成 28 年 8 月 26 日、中央教育審議会において「次期学習指導要領改訂に向けたこれまでの審議のまとめ」（以下、「審議のまとめ」と表記する。）が示された。「審議のまとめ」では、新しい時代に必要となる資質・能力の要素を「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の 3 つの柱として捉えている。さらに、「見方・考え方」を働かせた学習過程を通じて、資質・能力を育成することの重要性についても示された。「見方・考え方」は、知識が豊かになれば見方も豊かになり、思考力が深まれば考え方も深くなるという、資質・能力を育成する手段的側面である。

また、本研究における授業分析から明らかにした指導上の課題を、以下の 3 点に整理した。

- ・音楽表現の実現のための課題意識と解決までの見通しをもつこと
- ・思いや意図を音楽表現に結び付けること
- ・聴き取ったことと感じ取ったことを結び付けながら、自分なりに聴き深めること

本研究で明らかになった課題から、児童が思いや意図を生かして音楽表現したり味わって聴いたりするためには、学習課題を自分ごととして捉え、課題意識をもち続ける主体的な学びが必要ではないかと考えた。また、児童が主体的に学ぶためには、聴き取り感じ取ったことを互いに共有し、自分の感じ方や考え方を広げたり深めたりする対話的な学びが重要ではないかと考えた。

そして、本研究では、物事を捉える視点や思考の枠組としての「見方・考え方」に着目し、主体的な学びを実現するための授業改善の方策について、研究を進めていくこととした。音楽科における「見方・考え方」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けることである¹。

そこで、研究主題を「音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽と主体的に関わることができる児童の育成」とし、児童が音楽的な「見方・考え方」を十分に働かせて学びを深めるための指導方法について明らかにすることとした。

II 研究の視点

児童が思いや意図を生かして音楽表現したり味わって聴いたりするために効果的な手だてを「音楽的な見方・考え方を働かせるための手だて」として、10 の手だてに整理した。そして、10 の手だてを「まなびのたね 10」として、「音楽的な見方」と「音楽的な考え方」の 2 つの視点における手だての有用性について明らかにすることにした（表 1）。

¹ 「芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」（文部科学省 平成 28 年 8 月 26 日）

視点1 音楽的な見方	視点2 音楽的な考え方
音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働き、音楽に関わる記号・用語に着目して聴き取ったり感じ取ったりする。	音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けて考える。
音楽的な見方・考え方を働かせるための手だて「まなびのたね10」	
「伝え合い」、「共有・共感」、「比較」、「関連付け」、「見通し」、「振り返り」、「体を動かす」、「視覚的な情報」、「課題意識」、「試行」	

表1 二つの視点による10の手だて「まなびのたね10」

Ⅲ 研究の仮説

音楽的な見方・考え方を働かせるための手だて「まなびのたね10」を必要な学習場面で活用することで、児童が主体的に音楽と関わることができるであろう。

Ⅳ 研究方法

1 基礎研究

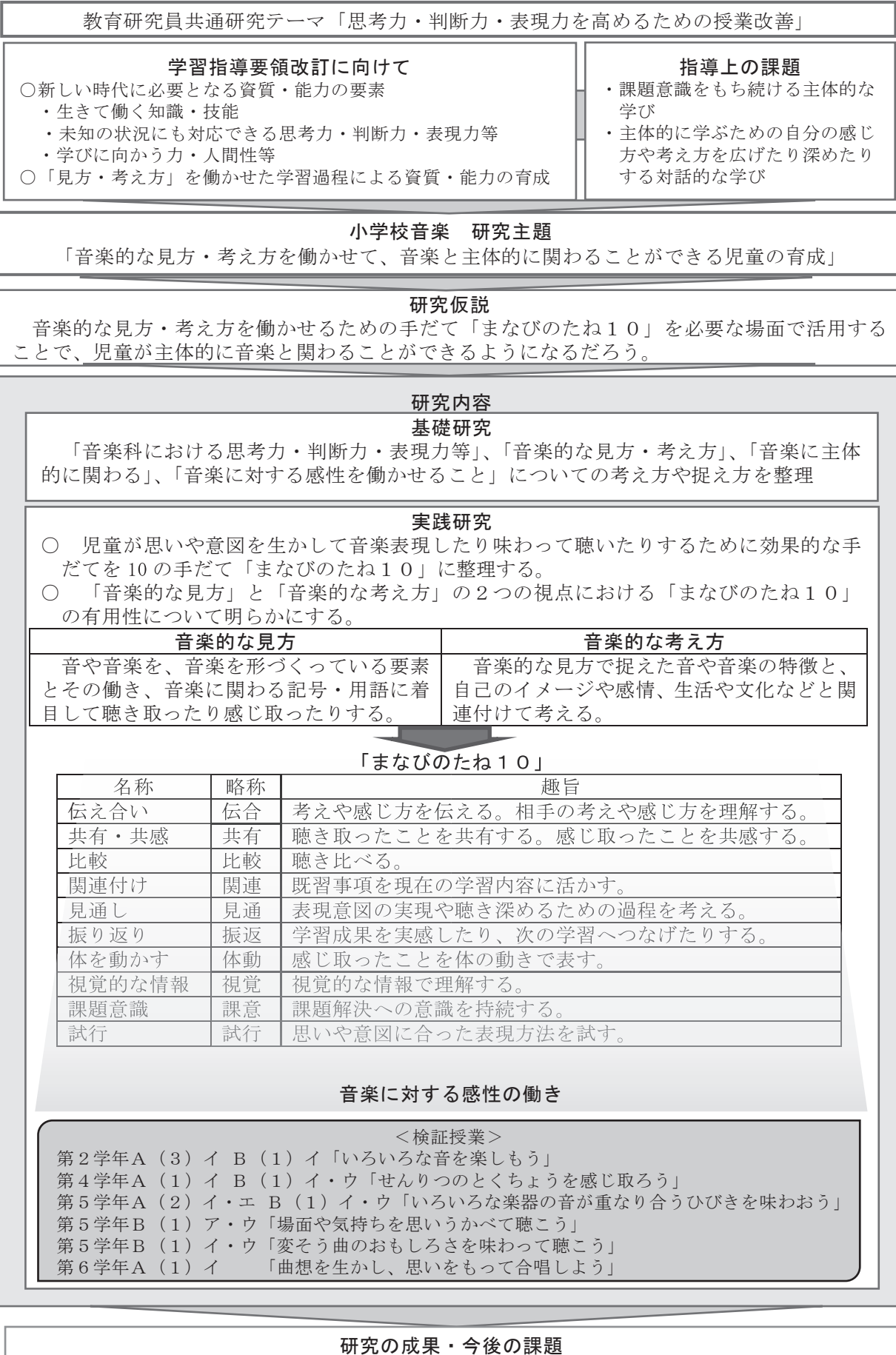
次の文献等を基に、「音楽科における思考力・判断力・表現力等」や「音楽的な見方・考え方」、「音楽に主体的に関わる」、「音楽に対する感性を働かせること」についての考え方や捉え方について整理した。

- ・「小学校学習指導要領解説音楽編」（文部科学省 平成20年8月）
- ・「中学校学習指導要領解説音楽編」（文部科学省 平成20年9月）
- ・「小学校学習指導要領実施状況調査 教科別分析と改善点（音楽）」
（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成27年2月）
- ・「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」
（文部科学省 平成28年8月26日）
- ・「芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」
（文部科学省 平成28年8月26日）
- ・「教育研究員研究報告書小学校 音楽」
（東京都教育委員会 平成22・23・24・25・26・27年度）

2 実践研究

6回の研究授業を通して、指導上の課題を明らかにするとともに、低・中・高学年の表現・鑑賞の領域における研究の視点（二つの視点による10の手だて「まなびのたね10」）の有効性について明らかにした。

3 研究構想図



V 研究の内容

1 主体的な学びを実現するための「音楽的な見方・考え方」

本研究では、主体的な学びを「児童が学習課題を自分ごととして捉え、課題意識をもち続ける学び」と捉えた。課題意識をもち続けるためには、児童が、既習事項を活用しながら、自分の学習成果を振り返り、次の学習につなげていくことができたり、今の学びが自分にとって必要な価値ある学びであると実感できたりすることが重要である。そのためには、児童が音楽的な「見方・考え方」を十分に働かせて学びを深めていくことができる学習場面の工夫が必要である。

そこで、「音楽的な見方」を、「音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働き、音楽に関わる記号・用語に着目して聴き取ったり感じ取ったりする」こと、「音楽的な考え方」を、「音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けて考える」ことと捉えた。本研究では、「音楽的な見方」と、現行学習指導要領の〔共通事項〕として示された指導内容を同様なものと捉えている。また、「音楽的な考え方」では、音や音楽の特徴と、イメージや感情、生活や文化などを「関連付ける」という視点で考えられるようにすることが重要である。

なお、音楽的な見方・考え方を働かせながら学習を進める際は、音楽に対する感性をいつも働かせていることが前提となっていることが重要である。

2 音楽的な見方・考え方を働かせるための手だて「まなびのたね10」

音楽を捉える視点である「音楽的な見方」と、音楽を考えるための視点である「音楽的な考え方」を働かせながら学習を進めるために必要な手だてを整理し、「まなびのたね10」とした。この10の手だてに優位性や順序性はない。それぞれの手だてが、その学習場面で、「音楽的な見方」を働かせるための手だてなのか、「音楽的な考え方」を働かせるための手だてなのかを明確にすることが重要である。

(1) 「伝え合い」伝合

自分の考えや感じ方を言葉で伝えたり、友達の考えや感じ方を受け止め、理解したりするための手だてである。

題材で扱う音楽を形づくっている要素やその働きについて言葉で伝えたり、友達の感じ方や考え方を受け止めたりすることで、音楽的な見方を働かせる。

互いの音楽表現を聴き合ったり、楽曲のよさや美しさについて言葉などで伝え合ったりしながら、音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と自己のイメージや感情などを関連付けて考えることで、音楽的な考え方を働かせる。

具体例	児童の変容
7種類の打楽器の奏法を試して、お気に入りの音色や奏法を見付けて紹介する。(見方)	「トライアングルをそっと叩く音がきれいだった」、「ウッドブロックの丸いところをクルクル回す鳴らし方が面白かった」等を伝え合い、多様な奏法による音色の面白さに気付くことができた。

(2) 「共有・共感」**共有**

聴き取ったことを共有したり、感じ取ったことを共感したりするための手だてである。

音楽を形づくっている要素やその働きを友達と共有・共感することで、新たな考え方や感じ方を実感し、音楽的な見方を働かせる。

音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と、共感したイメージや作曲者の意図や作曲技法などを関連付けて、そのよさを自分なりに見いだすことで、音楽的な考え方を働かせる。

具体例	児童の変容
聴き取ったり感じ取ったりしたことを整理した掲示や、友達の考えを参考にしながら、互いの感じ取ったよさについて交流する。(考え方)	「恐ろしい気分になりました。それは、とても高く短く音が連続しているからです。」という考えを基に、作曲者の意図と旋律の特徴とを関連付けて改めて楽曲を聴くことで、楽曲へのイメージがさらに広がった。

(3) 「比較」**比較**

楽曲や演奏表現を聴き比べるための手だてである。

曲想の異なる楽曲や、楽曲の中の対照的な部分や対照的な演奏表現を聴き比べて曲想とその変化を感じ取ることで、音楽的な見方を働かせる。

音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と、自己のイメージや感情、生活や文化などを関連付けて、どのように表現していくかについて思いや意図をもち、音楽表現を実現できているか友達や自分の演奏を聴き比べること、鑑賞では、曲想の異なる楽曲や、楽曲の中の対照的な部分を、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けてよさや面白さについて考え、聴き比べることで、音楽的な考え方を働かせる。

具体例	児童の変容
歌詞の内容と旋律、強弱の働きの間隔を基に、一定の強さで歌う歌い方と、旋律の上行に合わせて徐々に強くして歌う歌い方を比較する。(考え方)	空を見上げている感じを出すために「みあげれば」の部分は旋律の上行に合わせてだんだん強くして歌いたいという思いや意図をもつことができた。

(4) 「関連付け」**関連**

既習事項を現在の学習に活かすための手だてである。

音楽を形づくっている要素やその働きについての既習事項を現在の新たな学習課題の解決に活用することで、音楽的な見方を働かせる。

音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と、自己のイメージや感情、生活や文化などを既習事項を生かして関連付けて考えることで、音楽的な考え方を働かせる。

具体例	児童の変容
既習のゆったりした旋律の上行下行と関連付けて楽曲の曲想に着目する。(考え方)	旋律の上行と強さを結び付けた学習経験を生かし、新たな学習において児童一人一人が自分の思いや意図をもって表現を工夫することができた。

(5) 「見通し」**見通**

表現意図の実現までの過程や聴き深める過程を考えるための手だてである。

題材で扱う音楽を形づくっている要素やその働きに着目し、思いや意図を音楽表現に結び付けたり、自分なりに聴き深めたりするために必要なことについての見通しをもつことで、音楽的な見方を働かせる。

音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と、自己のイメージや作曲者の意図、生活や文化などを関連付けて考え、自分なりの表現方法や聴き深める方法の見通しをもつことで、音楽的な考え方を働かせる。

具体例	児童の変容
前時の板書を参考に、自分の選んだ曲の魅力を探るための過程に沿ったワークシートに記入しながら、聴き深めるための見通しをもつ。(考え方)	ワークシートに記入しながら繰り返し聴くことによって、場面や人物の心情について思い浮かべ、音楽的な諸要素の働きが根拠となっていることに気付くとともに、独唱曲がもつ魅力を自分なりに味わって聴くことができた。

(6) 「振り返り」**振返**

学習成果を実感したり、次の学習へつなげたりするための手だてである。

題材で扱う音楽を形づくっている要素やその働きについて学習したことや次の学習課題について振り返ることで、音楽的な見方を働かせる。

音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と、自己のイメージや感情、生活や文化などを関連付けて、実現したことや感じ取ったこと、自分なりに聴き味わったことは何かについて振り返ることで、音楽的な考え方を働かせる。

具体例	児童の変容
前時までの板書やワークシートを基に、自分なりに聴き味わったことを総括し、記述したり発言したりする。(考え方)	「この曲の面白さは、弦楽器の優雅な音色で旋律の重なり方が移り変わって、いろいろな場面がある波乱万丈の物語のような感じでわくわくするところです。」など、弦楽器の音色と旋律の重なり方の違いによって場面が移り変わるように感じられる楽曲のよさを味わって聴くことができた。

(7) 「体を動かす」**体動**

感じ取ったことを体の動きで表すための手だてである。

題材で扱う音楽を形づくっている要素やその働きについて、体を動かして、要素同士の関わり合いから感じ取ったことを自分なりに捉えることで、音楽的な見方を働かせる。

体を動かして、感じ取ったことを確かめたり味わったりし、音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と自己のイメージや感情、生活や文化などを関連付けて考えることで、音楽的な考え方を働かせる。

具体例	児童の変容
旋律の伸びやかな感じやはずむ感じ、旋律が繰り返しながら上行していくことを、体を動かしながら聴いて感じ取る。(見方)	旋律の上行下行に合わせて友達と手を合わせたり、リトミックスカーフを動かしたりすることで伸びやかな感じとはずむ感じの旋律の特徴を捉え、それらが繰り返し出てくることで反復を捉えた。一曲を様々な動きで感じ取ることで、曲想や楽曲の構造を具体的に捉えることができた。

(8) 「視覚的な情報」**視覚**

視覚的な情報で理解するための手だてである。

題材で扱う音楽を形づくっている要素やその働きについての様々な考えや感じ取り方を整理して板書したり、要素同士の関わり合いや楽曲の構造を、図形譜や楽譜などで表したりすることで、音楽的な見方を働かせる。

音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と視覚的な情報を基に自己のイメージや感情、生活や文化などを関連付けて考えることで、音楽的な考え方を働かせる。

具体例	児童の変容
自分の考えをワークシートの記述で確かめたり、付箋を貼り替えて問いと答えのリズムや強弱を視覚的に操作したりしながら、音を試す。(考え方)	楽器の音色やその音色に合うリズムについて、自分なりの考えをもって選んだり、どのようなリズム・強弱にするか付箋で表し、それを見ながら音を試したりして、どのような音楽にしたいかを明確にすることができた。

(9) 「課題意識」**課意**

課題解決への意欲を持続させるための手だてである。

児童が学習課題を自分ごととして捉え、題材で扱う音楽を形づくっている要素やその働きに着目し、解決への意欲を持続させることができるような課題を設定することで、音楽的な見方を働かせる。

常に学習課題を想起し、確認することで課題意識を持続させ、音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と自己の感情やイメージ、生活や文化などを関連付けて考えることで、音楽的な考え方を働かせる。

具体例	児童の変容
<p>変奏曲のよさを味わって聴くため、「変奏曲とはどのような音楽か」という疑問から「変奏の仕掛けを見付ける」という課題を設定し、常に課題を意識しながら、変奏曲の何がどのように変化していくのかという、変化の過程に着目して聴く。(見方)</p>	<p>主題や前の変奏との変化に着目して聴くことにより「第3変奏の主な旋律は、第1や第2変奏と比べて低い音だったので、伴奏のピアノの細かい動きが目立って聴こえて忙しい感じがした。」など、各変奏の特徴を捉えて聴くことができた。</p>

(10) 「試行」**試行**

思いや意図を実現するための表現方法を試すための手だてである。

題材で扱う音楽を形づくっている要素とその働きに着目して、表したい音楽表現を見いだすために試行を重ねることで、音楽的な見方を働かせる。

表したい音楽表現をどのように実現していくかについて、音楽的な見方で捉えた音や音楽の特徴と自己のイメージや感情、生活や文化などを関連付けて試行錯誤することで、音楽的な考え方を働かせる。

具体例	児童の変容
<p>スタッカートやレガート、旋律の動きに合わせて強弱が変化する楽曲を、イメージを根拠に、息の流れ、声の方向性、声の響きに気を付けて繰り返し歌って試す活動を積み重ねる。 (考え方)</p>	<p>思いや意図を自己のイメージと関わらせながら、創意工夫を積み重ねることで、旋律の特徴を生かした音楽表現に向けて実感を伴いながら実現していくことができた。</p>

3 実践事例

(1) 第2学年 題材名「いろいろな音を楽しもう」A (3) イ B (1) イ

題材の目標	打楽器の音色の違いや特徴を感じ取り、それらを生かして問いと答えの音楽をつくったり、問いと答えの生み出すよさや面白さを楽しんで聴いたりする。
主な教材	「だがつきパーティー」「がっきでおはなし」
[共通事項]	ア(ア)音色 リズム 強弱 (イ)問いと答え(模倣・対照)
音楽的な見方	打楽器の音色やリズム、強弱とその働きに着目して聴き取ったり、感じ取ったりする。
音楽的な考え方	音色やリズム、強弱による音楽の特徴と自己のイメージとを関連付けて、問いと答えの音楽を考えたり、味わって聴いたりする。

指導計画 (全4時間扱い 抜粋)	
◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	★音楽的な見方 ☆音楽的な考え方 □まなびのたね ◇評価規準 (評価方法)
<p>◆打楽器の音色の違いや特徴を感じ取り、それらを生かして問いと答えの音楽をつくったり、問いと答えの生み出すよさや面白さを楽しんで聴いたりする。</p> <p>○打楽器の音色の違いを感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> • どんな楽器の音色がするのかに気を付けて「だがつきパーティー」を聴く。 • 楽器の音色について気付いたことを発表し合い、楽器の名前、リズム、オノマトペ、音色、強弱などについて確認する。 • 楽曲を聴き、気付いた内容について確かめる。 • 好きな楽器の音とその理由を考えながら聴く。 <p>○打楽器の音色とリズム、強弱を感じ取り、音の出し方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「だがつきパーティー」で学習した打楽器の音色を振り返り、「がっきでおはなし」のお気に入りの楽器を見付ける活動に見通しをもつ。 • 楽器探検をして、いろいろな音の出し方を試して、好きな音を探す。 • 友達の見付けた素敵な音について知る。 • 既習の音符を使った3種類のリズムや、2分音符について知り、リズムを手拍子する。 	<p>★課題 打楽器の音色について聴くことを伝え、見通しをもって聴けるようにする。</p> <p>★伝合 気付いたこと感じたことを板書にまとめ、自分の考えを確かめたり、友達の考えを受け止めたりできるようにする。</p> <p>★比較 音色の違いを聴き比べ、各楽器の音色の特徴を捉えられるようにする。</p> <p>★視覚 DVDを鑑賞し、聴き取ったことを視覚的に確かめられるようにする。</p> <p>☆課題 聴き取ったことを基に、自分の好きな音を見付けることで、次時への課題意識を持続できるようにする。</p> <p>◇鑑① 打楽器の音色の違いを感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 (発言内容・行動観察)</p> <p>★見通 聴き取った音色について振り返り、実際にお気に入りの音を見付ける活動への、見通しがもてるようにする。</p> <p>☆試行 7種類の楽器で様々な演奏の仕方を試し、自分の好きな音色について、思いをもてるようにする。</p> <p>☆共有 音の出し方や強弱を工夫し思いをもって表現している児童の演奏を聴いて、そのよさを共有できるようにする。</p> <p>★動き 2分音符に合わせて体を動かし、持続する長さを体感できるようにする。</p>

- ・お気に入りの楽器に合いそうなリズムを予想して試し、音色に合うリズムを確かめる。
- ・お気に入りの楽器とその音色に合うリズムを、学習カードに記入する。

○打楽器の音色とリズム、強弱、問いと答えの関わり合いが生み出す音楽の面白さを感じ取りながら、どのような音楽をつくるかについて思いをもち、音の組合せや強弱などを工夫し、問いと答えの音楽をつくる。

- ・前時のお気に入りの楽器で、その音色に合うリズムを振り返る。
- ・二人組で、「呼びかける役」と「答える役」に分かれて、楽器でお話する音楽の作り方を知る。
- ・二人組で、楽器でお話する音楽をつくる。
- ・友達のつくった音楽の発表を見て、楽器の音色に合うリズムや、強弱の表現のよさを見付ける。

○打楽器の音色の特徴と、強弱、問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って聴く。

- ・打楽器が問いと答えをしていると感じる部分を見付けながら「だがつきパーティー」を聴く。
- ・どうしてそう思ったのか、理由を発表し、楽曲を聴いて確かめる。
- ・自分が面白いと感じる問いと答えの部分を見付けながら聴き、学習カードに記入する。
- ・何人かの面白いと感じた部分と理由の発表を聴く。
- ・自分や友達が面白いと感じた問いと答えの部分を楽しんで聴く。

☆**試行**好きな音色を生かしたリズムについての予想を基に、何種類かを聴き比べて確かめられるようにする。

◇**創①**打楽器の音色とリズム、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取って、奏法を工夫している。

(行動観察、演奏聴取)

☆**見通**打楽器の音色のよさや、リズム、強弱、問いと答えを生かしてどのような音楽をつくるかについて考えをもてるようにする。

☆**視覚**強弱と答え方(模倣・対照)について、付箋で貼ってから試すことで、自分が試している内容を明確に捉えることができるようにする。

☆ お友だちの「よびかけ」に、「まねっこ」か「おへんじ」でこたえよう!

☆ つよさをくふうして、おもしろい音楽にしよう!

よびかける人	こたえる人	よびかける人	こたえる人
よびかけ	まねっこ	よびかけ	おへんじ
つよい	よわい	つよい	よわい

☆**共有**リズムや強弱を工夫し思いをもって表現している児童の演奏を聴いて、そのよさを共有できるようにする。

◇**創②**打楽器の音色とリズム、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、問いと答えの仕組みを生かし、呼びかけたり、模倣と対照の答え方を試したりして、どのような音楽をつくるかについて自分の考えをもっている。


(行動観察、演奏聴取)

☆**関連**音楽づくりで経験した問いと答えに関連付けて音楽を聴けるようにする。

★**伝合**新しい気づきを全体で共有する。

◇**鑑①**打楽器の音色の特徴やリズム、強弱、問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽しんで聴いている。(発言内容・行動観察)

(2) 第4学年 題材名「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」A(1)イ B(1)イ・ウ

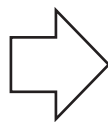
題材の目標	旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫しながら思いや意図をもって歌う。 旋律の特徴とそれが生み出す曲想に気づき、楽曲の特徴や演奏のよさを考えて聴く。
主な教材	「ゆかいに歩けば」「白鳥」「美しきロスマリン」
[共通事項]	ア(ア) 音色 旋律 強弱 フレーズ イ  タイ スタッカート
音楽的な見方	楽曲の旋律とその働きに着目して、聴き取ったり感じ取ったりする。
音楽的な考え方	旋律の特徴と歌詞と自己のイメージや感情を関連付けて、表したい音楽表現や演奏のよさを考える。

指導計画 (全6時間扱い 抜粋)	
◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	★音楽的な見方 ☆音楽的な考え方 □まなびのたね ◇評価規準 (評価方法)
<p>◆旋律の特徴を生かして、「ゆかいに歩けば」にふさわしい表現を工夫する。</p> <p>○「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴を生かし、表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、楽曲の特徴や旋律の特徴を確認する。 ・どのように工夫していくかについて全体で確認する。 	<p>★旋律の特徴とその働きの視点で音や音楽を捉えて聴き取ったり感じ取ったりする。</p> <p>★共有体を動かしながら楽曲の特徴や旋律の動きを共有していくようにする。</p> <p>★体動体を動かしながら歌ったり、音楽を聴きながら動いたりするように伝える。</p> <p>★振返拡大図形楽譜を見ながら旋律の特徴とその働きについて確かめるように伝える。</p> <p>☆課意拡大図形楽譜を見ながら、旋律の特徴を生かした工夫を確認できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>思いや意図を生かした音楽表現に必要な技能のための「技・ヒント」</p> <p>① ろうそくフツ スタッカートや歌詞を自己のイメージと関連付けて歌いながら確かめるための体動</p> <p>② 瞬間マヨネーズ 旋律線やスタッカート、歌詞を自己のイメージと関連付けて歌いながら確かめるための体動</p> <p>③ 両手ぐるぐる 旋律線やレガート、歌詞を自己のイメージと関連付けて歌いながら確かめるための体動</p> <p>④ 巨大スライム 旋律線やレガート、反復や強弱との関わり合いを自己のイメージと関連付けて歌いながら確かめるための体動</p> </div>
<ul style="list-style-type: none"> ・どのように表現を工夫するかについて、グループで話し合う。 	<p>☆旋律の特徴や歌詞と自己のイメージを関連付けて、表したい音楽表現を見いだす。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴を生かし、工夫して歌う。 ・各グループの工夫について発表し、確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・再度工夫する。 ・意見交換する。 ・自分たちなりの表現の工夫を確かめながら、旋律の特徴を生かして全員で歌詞唱する。 ・学習したことを学習カードにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆見通拡大図形楽譜を確認することで、試行錯誤し課題解決する学習への見通しがもてるようにする。 ☆視覚旋律の特徴とその働きを確認できるように、図形楽譜を示す。 ☆関連習得した「技・ヒント」を活用しながら工夫するように伝える。 ☆試行グループで「技・ヒント」をラミネート楽譜に記入しながら、歌って試していくように伝える。 ☆体動「技・ヒント」を活用し、体を動かしながら試行錯誤していくように伝える。 ☆伝合どのような「技・ヒント」を使って工夫しているのかグループ同士ラミネート楽譜を見合ったり、思いや意図に関して言葉で伝え合ったりするよう助言する。 ☆共有思いや意図に関する部分について、グループ同士の意見を交流するために歌って確かめるように伝える。 <p>◇創②思いや意図をもって、「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴を生かした表現の工夫をしている。（表情観察・演奏聴取・学習カード）</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆振返旋律の特徴を生かした工夫ができたか学習カードに記入するように伝える。
---	--

1回目の学習での**振返**

すいすい魚がおよいでいるみたいに歌いたい。スタッカート部分は、聞いている相手にもはねてるなあと感じられるぐらい分かりやすく歌いたい。



2回目の学習での**振返**

魚がおよいでいると感じたところは、せんりつがくりかえしているので、「きょ大スライム」で歌ってみたい。はねるときには息のスピードに気を付けて「ろうそくフツ」でやってみたい。




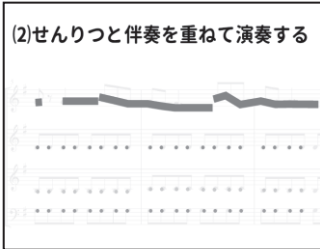

本指導計画での**振返**

1回目の時に考えた歌い方がむずかしくて、できなかったから、「技・ヒント」でやってみたら、とても上手にできた。「技・ヒント」がなくても、すいすい魚がおよいでいる感じが伝わるようにこの学習をいかして歌っていきたい。

(3) 第5学年 題材名「いろいろな楽器の音が重なり合うひびきを味わおう」

A(1)イ・エ B(1)イ・ウ

題材の目標	弦楽器の重なり合う音色や、旋律の重なり方の違いが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを味わって聴いたり演奏したりする。
主な教材	「アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章」
[共通事項]	ア(ア)音色 旋律 音の重なり(同じ旋律・旋律と伴奏・旋律の掛け合い)
音楽的な見方	音色や旋律、音の重なり(同じ旋律・旋律と伴奏・旋律の掛け合い)とその働きに着目して聴き取ったり感じ取ったりする。
音楽的な考え方	音色や旋律、音の重なり(同じ旋律・旋律と伴奏・旋律の掛け合い)による特徴と自己のイメージや感情と関連付けて表したい音楽表現を考えたり、楽曲のよさを味わったりする。

学習計画(全5時間扱い 抜粋)		
◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	★音楽的な見方 ☆音楽的な考え方 □まなびのたね ◇評価規準(評価方法)	
<p>◆弦楽器の重なり合う響きや、音の重なり方の違いによるよさや面白さを味わって聴く。</p> <p>○旋律の重なり方に気を付けて聴き、そのよさや面白さを感じ取る。</p>	<p>★弦楽器の旋律の重なり方の違いとその働きに着目して聴き取ったり感じ取ったりする。</p> <p>☆弦楽器の旋律の重なり方の違いと自己のイメージや感情と関連付けて考え、楽曲や演奏のよさを考える。</p> <p>☆課意 200年以上前の曲が今も親しまれている理由やこの曲のよさとは何かについて考えることを確認する。</p> <p>★見通 前時までのリコーダー合奏の学習を基に、音の重なり方の視点から楽曲のよさに迫ることを伝える。</p> <p>★視覚 図形楽譜を示し、3種類の音の重なり方が移り変わっていくことを確認する。</p>	
<p>(1) 全員で同じせんりつを演奏する</p> 	<p>(2) せんりつと伴奏を重ねて演奏する</p> 	<p>(3) 交互に演奏する</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・全曲を通して聴き、旋律の重なり方が変わったところを聴き取ってワークシートに書く。 ・旋律の重なり方の違いによって感じたことや想像したことをワークシートに書く。 	<p>★関連 合唱やリコーダー合奏で学習した、音の重なり方による感じの違いについて想起させる。</p>	

・感じたことをペアや全体で発表し合い、共感したことや新たな考えがあれば書き足す。

○弦楽器の重なり合う響きや音の重なり方の違いによるよさや面白さを味わう。

- ・これまでの学習で学んだ「弦楽器」、「音の重なり」、「感じたこと」などの言葉を使って、楽曲の面白さを文にまとめる。
- ・書いた文をペアや全体で発表し合い、共感したことや新たな考えがあれば書き足す。

児童の感想

弦楽器を使っているのが、リコーダーとは違う優雅な雰囲気になったり、せんりつや音の重なり方が次々と変わっていったりするので、日本の四季の移り変わりのような感じがしました。

私は、いろいろな場面がある波乱万丈の物語を読んでいるような感じでワクワクするところがこの曲の面白さだと思います。

・よさや面白さを味わって聴く。

★**伝合** 感じたことを発言させる。

◇鑑①弦楽器の音色や旋律の重なり方の違いを聴き取り、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。

(ワークシート、発言内容)

★音色、旋律、音の重なり(同じ旋律・旋律と伴奏・旋律の掛け合い)とその働きに着目して聴き取ったり感じ取ったりする。

☆音色、旋律、音の重なり(同じ旋律・旋律と伴奏・旋律の掛け合い)と自己のイメージや感情と関連付けて考え、楽曲や演奏のよさを考え味わい、自分なりに音楽のよさを見いだす。

☆**共有** 前時のワークシートから、楽曲の特徴やよさを感じ取っているものを実物投影机で紹介する。

☆**振返** 例文「この曲のおもしろさのひみつは○○で○○な感じがするところです。」を示し、「弦楽器、せんりつ、音の重なり」から二つ以上の言葉を使って書くよう助言する。

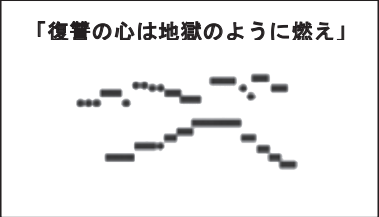
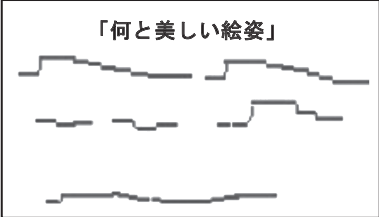
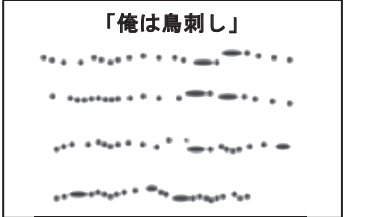
☆**共有** 発言内容について共感できるところがあるか、楽曲を聴いて確かめるようにする。

☆**振返** 第1時の始めと、本時に感じたことを比較し、学習を通してわかったことや心に残ったことを感じながら鑑賞するよう助言する。

◇鑑②弦楽器の音色や旋律の重なり方の違いから感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。(ワークシート、発言内容)

(4) 第5学年 題材名「場面や気持ちを思いうかべて聴こう」B(1)ア・ウ

題材の目標	声の種類や速度、旋律、調性の働きを聴き取り、それらが表す場面や心情について想像したことや感じ取ったことを言葉で表し、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く。
主な教材	歌劇『魔笛』より 「俺は鳥刺し」「何と美しい絵姿」「復讐の心は地獄のように燃え」
〔共通事項〕	ア(ア) 音色(声域) 旋律 速度
音楽的な見方	独唱曲の声の種類や速度、旋律の働きに着目して、聴き取ったり感じ取ったりする。
音楽的な考え方	声の種類や速度、旋律による独唱曲の特徴と、場面や人物の心情、自己のイメージ、作曲者の意図を関連付けて、楽曲のよさを理解する。

学習計画 (全3時間扱い 抜粋)		
◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	★音楽的な見方 ☆音楽的な考え方 □まなびのたね◇評価規準 (評価方法)	
<p>◆歌劇「魔笛」の独唱曲における声の種類・速度・調性の働きを聴き取り、それらが表す場面や心情について想像したことや感じ取ったことを言葉で表し、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く。</p> <p>○「魔笛」の独唱における、音楽の諸要素の働きを聴き取り、それらが表す場面や心情を感じ取って聴く。</p> <p>・三つの独唱について、感じ取ったことを振り返る。</p>	<p>★歌劇の独唱曲における音や音楽の特徴を、声の種類や速度・旋律の働きに着目して聴き取ったり感じ取ったりする。</p> <p>☆歌劇における独唱曲が表す場面や人物の心情と、自己のイメージや作曲者の意図を関連付けて、楽曲のよさを自分なりに見いだす。</p> <p>★視覚三つの図形譜を示し、音の高さや動き、長さ、音型のちがいを確認させる。</p>	
<p>「復讐の心は地獄のように燃え」</p> 	<p>「何と美しい絵姿」</p> 	<p>「俺は鳥刺し」</p> 
<p>・全体で各曲の声の種類・速度・旋律・調の違いを確認する。</p> <p>・図形譜をもとに旋律をヴォカリーズで歌う。</p> <p>・独唱曲が歌われる実際の場面や人物を知る。</p> <p>・自分の選んだ曲ごとに三つのグループに分かれ、旋律・速度・調と場面をもとに役の心情を想像しながら繰り返し聴き、〔学習カード2〕にまとめる。</p>	<p>★関連既習事項である混声合唱の響きについて感じ取ったことを掲示し、人物の心情と関連付けて考えることができるようにする。</p> <p>☆課意感じ取ったことや音楽の諸要素の働きを根拠に、曲の魅力を自分なりに探すことを意識させる。</p> <p>☆見通前時の板書や思考の流れに沿った学習カードを用いることで、自分の選んだ曲の魅力を探るための過程を考えながら聴くことができるようにする。</p>	

〔学習カード2〕にまとめる内容

- ① 歌っている役
- ② 歌っている場面
- ③ 歌声から伝わってきたこと(その役の気持ち、性格、動きなど)
- ④ それはどんな音楽だからか、声の種類、せんりつ、速度、リズム、長調か短調かを使って表現
- ⑤ この歌のみりよく

- ・グループ内でまとめた内容を発表し合う。
- ・友達の見つけた魅力を探しながら繰り返し聴く。
- ・全体で集まり数人の①～④のまとめを聞く。

児童の感想

この歌は王子タミーノが、パミーナの絵姿にひとめぼれする場面で歌います。歌声をきいて、パミーナにうっとりしているのが伝わりました。それは男性で高い声の人が、なめらかにだんだんさがっていくせんりつをくりかえしているからです。

児童の感想

この歌は「夜の女王」が、ザラストロを殺すようパミーナに命じる場面で歌います。歌声をきいて、殺せと命じているのに「アッハッハッ」とわらっているようにきこえて、おそろしくなりました。短調なのに明るくきこえるのがふしぎです。それはものすごい高い音が連続しているからだだと思います。

- ・再び3グループに分かれ、④までまとめる。

		ふくしゅうの心はじごくのようにもえ
歌っている役		夜の女王
予想した場面		
どのような感じがしたか		<ul style="list-style-type: none"> ・ものすごくおこっているのが伝わる ・ちからづよい ・暴れている感じ ・個性的 ・不気味 ・悲しみ ・ぜつぼう ・いきおいがある ・イライラ ・あわてふためいている ・だれかにつよくものを言っている
「音楽のもと」のはたらき	声の種類	コロラトゥーラソプラノ
	せんりつ	
	速さ	はやい
	調	短調
実際の場面		ザラストロを殺すようパミーナに命じる場面

前時の板書の提示の一部

- ☆**伝合**場面や心情についてまとめた内容をグループごとに2回発表し合い、互いの考え方を自分の思考に生かすことができるようにする。
- ☆**共有**自分なりのよさを見いだすために伝え合いを基に繰り返し聴かせる。
- ☆**共有**机間指導を基に、グループ内で多くの児童が共感していた内容や、作曲者の意図や仕掛けに迫るきっかけとなり得る内容を把握しておき、全体で共感することができるようにする。
- ☆**振返**思い浮かべた場面や心情についてまとめた内容から、楽曲のよさを自分なりに見いだすよう助言する。

- ◇鑑①「魔笛」の独唱曲における声の種類や旋律・速度・調性の働きを聴き取り、それらが表す曲想を感じ取って聴いている。(行動観察、学習カード)

(5) 第5学年 題材名「変奏曲のおもしろさを味わって聴こう」B (1) イ・ウ

題材の目標	音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解し、主題が次々に変化する変奏曲のよさや面白さを味わって聴く。
主な教材	ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章
[共通事項]	ア(ア)音色 リズム 速度 旋律 強弱 調 イ(イ)反復 問いと答え 変化 音楽の縦と横の関係
音楽的な見方	主題の旋律の音色やリズムの変化、主題の旋律と伴奏の動きによる音楽の縦と横の関係、速度や強弱、調の変化による主題の反復や主題の旋律と伴奏の掛け合いとその働きに着目して、聴き取ったり感じ取ったりする。
音楽的な考え方	各変奏の特徴と、主題が変化することによって引き起こされる自己のイメージや感情、作曲者の思いなどと関連付けて、変奏曲のよさを味わって聴く。

学習計画 (全3時間扱い 抜粋)	
◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	★音楽的な見方 ☆音楽的な考え方 □まなびのたね ◇評価規準 (評価方法)
<p>◆変奏曲に興味をもち、音楽を形づくっている要素の関わり合いを手掛かりにして、各変奏の特徴を感じ取って聴く。</p> <p>○ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章の第3・4変奏を聴き、各変奏の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題から第2変奏を聴き、前時の学習を振り返る。 ・音楽を形づくっている要素の関わり合いの変化を見付けながら、第3変奏を聴く。 ・各自で聴いた後グループ(4人)になり、聴き取ったことを基にして感じ取ったことを伝え合いながら聴き、感じ取ったことと聴き取ったことをタブレット端末に記入する。 ・感じ取ったことと聴き取ったことを結び付けながら発表し、全体で第3変奏の特徴を確認する。 	<p>★主題の旋律の音色、リズム、速度、旋律、強弱、調や反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係とその働きに着目して聴き取ったり感じ取ったりする。</p> <p>★振返主題から第2変奏の変化を確認する。</p> <p>★課題変奏曲のよさに迫るため、「作曲家が使った変奏の仕掛けを見付ける」という、第1時にもった課題意識を確認する。</p> <p>★見通課題解決のため、要素の関わり合いの変化に着目し、「主題や前の変奏と比べての変化」を捉えて聴くよう伝える。</p> <p>★比較第3変奏の主題の旋律の音色と、伴奏のピアノの32分音符の副次的な旋律との関わりに気付くよう、第2変奏の主題の音色、リズム、副次的な旋律に着目し比較しながら聴かせる。</p> <p>★伝合児童が、どの要素に着目し、どのように感じたのかを、音楽を聴きながら友達と伝え合うことができるよう、繰り返し音楽を流すようにする。</p> <p>★視覚聴き取ったことと感じ取ったことを分類して板書する。</p> <p>★視覚音楽を形づくっている要素の関わり合いの変化を全体で探るため、各グループで見付けた変奏の仕掛けをスクリーンで映す。</p>
<p>児童の感想</p> <p>第3変奏は、トランポリンに乗って弾んでいるように感じました。理由は、チェロとコントラバスの旋律が、一つ一つ区切って演奏されていたからです。</p>	

児童の感想

第3変奏は、森の中で耳を澄ますと小鳥や他の動物の鳴き声が聴こえてくるような感じがしました。理由は、伴奏のピアノの音は目立っていて、小鳥の鳴き声のように聴こえて、更によく聴くとチェロとコントラバスの旋律は、大きな動物の声を表しているように感じたからです。

- ・第4変奏を聴き、聴き取ったことと感じ取ったことをワークシートに書く。
- ・聴き取ったことや感じ取ったことを発表する。

- ・「タイトル」をグループで考え、タブレット端末に入力する。
- ・各グループの「タイトル」を見合う。

児童の考えた「タイトル」

「第4変奏は、音楽が強く、激しいところと柔らかくて優しいところが繰り返されていたので、「雨と晴れの繰り返し」という「タイトル」で表しました。」

- ・主題から第4変奏までをDVDで視聴する。
- ・振り返りをする。

★**共有**感じ取ったことが同じでも音楽的な根拠が異なったり、音楽的な根拠は同じでも感じ取ったことが異なったりすることに気付くことができるような順番でグループの意見を紹介する。

★**共有**友達の発言から得た新たな考え方や感じ方を実感することができるよう、必要な部分の音楽を聴かせ、音楽で確かめるようにする。

★**視覚**主題の旋律（ピアノ）と伴奏（弦楽器）の6連符の掛け合いによる関わり合いを理解できるよう、DVDの映像で確認する。

★**共有**聴き取ったことと感じ取ったことを分類して板書したり、音楽的根拠を問う発問をしたり、児童が出した意見を音で確かめたりする。

☆自分たちで捉えた第4変奏の特徴と、自己の感情やイメージを関連付け、第4変奏の特徴を表す言葉（以下、「タイトル」と表記する。）を考えることで、第4変奏のよさを見いだす。

☆**視覚**全てのグループのタブレット端末の情報をスクリーンで映し、他のグループの「タイトル」と比較して見るができるようにする。

☆**共有**根拠が似ている「タイトル」を選んで映したり、「なぜこの「タイトル」を付けたのか」を問い掛けたりし、音楽の特徴と自己の感情をより深く関連付けることができるようにする。

★**振り返**変奏の仕掛けを見付けることができたか、グループで聴き、様々な感じ方や考え方に気付くことができたか、聴き取ったことや感じ取ったことを基に「タイトル」を考えることができたかなどについてワークシートに記入させる。

◇鑑①音楽を形づくっている要素の関わり合いの変化を聴き取り、それらの働きが生み出す各変奏の特徴を感じ取って聴いている。

（表情観察、発言、ワークシート）

第3時の児童の感想

・元の主題は同じでも、変奏ごとに強弱や音色が違って、第4変奏は盛り上がってくる。全部同じ旋律だったらつまらないけれど、変奏したらいろいろな旋律があるから楽しい。いろいろな楽器があるからそれを生かして弾いているところも、この曲の面白いところだと思う。

- ・変化を意識して、次の授業でも作曲者の工夫や変化を感じて聴きたい。

(6) 第6学年 題材名「曲想を生かし、思いをもって合唱しよう」A(1)イ

題材の目標	歌詞の内容と曲想を生かして表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。
主な教材	「広い空の下で」
〔共通事項〕	ア(ア) 旋律 強弱 音の重なり フレーズ (イ)フォルテ <<<
音楽的な見方	歌詞や旋律の上行下行、旋律の重なり、強弱、フレーズ、伴奏とその働きに着目して、聴き取ったり感じ取ったりする。
音楽的な考え方	歌詞や旋律の上行下行、旋律の重なり、強弱やフレーズによる音楽の特徴と、自己のイメージや感情、生活、作詞者・作曲者の意図などに関連付けて表したい音楽表現を考える。

学習計画 (全5時間扱い 抜粋)	
◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	★音楽的な見方 ☆音楽的な考え方 □まなびのたね ◇評価規準 (評価方法)
<p>◆旋律の上行下行や強弱やフレーズ、旋律の重なりが生み出すよさを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫しどのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもつ。</p> <p>○「歌詞の内容、旋律の上行下行や強弱やフレーズ、旋律の重なりが生み出すよさを手掛かりにして、強弱や音色を生かした表現を工夫したい。」という思いをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五年生に「友情」や「きずな」のよさを歌で伝えるために学習してきたことを確認する。 ・歌詞の内容と自分の思いを五年生に歌で伝えられるように、歌い方を工夫して歌うというめあてをもつ。 ・何を根拠に歌い方を工夫すればよいか考える。 ・「広い空の下で」の旋律の重なりによって生まれるよさを確認する。 ・楽譜の旋律の重なりを指で追いながら、自分が感じ取ったことを思い出しながら聴く。 ・歌詞の内容と旋律の重なりに注目して歌う。 	<p>☆課題児童が第1時に書いた、五年生へ伝えたい思いや曲想について学習してきたことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>青空を友達と一緒に見られるのは幸せなのだという。そばにいてくれる友達は大切な人だから、今いる友達をもっと大切にしたい。辛いこともうれしいことも、共に乗り越えるといい仲間になれる。</p> </div> <p>☆見通歌詞の内容、旋律の上行下行や強弱やフレーズ、旋律の重なりが生み出すよさを手掛かりにして、表現を工夫することを確認する。</p> <p>☆視覚根拠となる音楽を形づくっている要素を板書する。</p> <p>☆共有旋律が重なるよさについて前時で感じ取ったことを発表し合い共有する。</p> <p>★体動楽譜の旋律の重なりを指で追わせる。</p> <p>★視覚拡大楽譜で示す。</p> <p>★関連歌詞の内容と旋律の重なりを考えながら歌わせる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・「みあげればあおぞら」の部分の音が上行しながら、同じリズムで追いかけて重なる旋律であることに気付く。 ・上行しながら、同じリズムで追いかけて重なる旋律にすることで、作曲者が表したかった様子を考える。 ・「みあげれば」から強弱と音色を工夫して歌う。 ・楽譜を見ながら1番を通して歌い、「強弱と音色を工夫して歌いたい」という思いをもつ。 <p>○歌詞の内容、旋律の上行下行や強弱やフレーズ、旋律の重なりが生み出すよさを手掛かりにして、強弱と音色の働かせ方を意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容、旋律の上行下行や強弱やフレーズ、旋律の重なりが生み出すよさを根拠に、表現したい気持ちを考え強弱と音色の働かせ方を考え試す。 ・自分と友達と考えを比較しながら試して歌う。 <p>・旋律の上行下行や強弱やフレーズ、旋律の重なりが生み出すよさを聴き取り、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫しどのように歌うかについて自分の考えをもつことができたかを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや思いをもって、全曲を通して歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★視覚拡大楽譜で確認する。 <p>☆友達と一緒に空を見上げ語り合う歌詞に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★比較強弱と音色の工夫を比較させる。 ★伝合、共有強弱と音色の働きを比較したことを伝え合い、共感させる。 ☆見通強弱と音色を工夫して歌い方を工夫するという見通しをもたせる。 <p>☆見通、視覚学習カードを基に方法を例示し、強弱と音色の働かせ方を意識させる。</p> <p>☆視覚学習カードに知覚したこと、感受したこと、歌い方の工夫を整理して記入させる。</p> <p>☆試行考えを歌って確かめるように伝える。</p> <p>☆伝合、比較自分の考えを友達に伝え、友達の考えを知ること、新たな価値を広げさせる。</p> <p>☆共有全体で歌うことで友達の工夫のよさを確かめさせ、共有できるようにする。</p> <p>☆振返課題に対する達成の状況を自己評価したり、学習したことの意味を自覚したりして次の学習へつなげさせる。</p> <p>◇創②歌詞の内容と旋律の上行下行、旋律の重なり、強弱やフレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">(発言内容・演奏聴取・学習カード)</p>
--	---

4 「まなびのたね10」事例一覧

音楽的な見方：見方 音楽的な考え方：考え方

「伝え合い」 考えや感じ方を伝える。相手の考えや感じ方を理解する。	
見方	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き取ったことと感じ取ったことを整理して板書し、それを基に話し合い、知覚と感受を結び付けて音楽を捉えられるようにする。 ・聴き取ったことと感じ取ったことについてグループでタブレット端末を活用して話し合うことで思考を促し、自分の感じ方を言葉で表すことができるようにする。(鑑賞)
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ラミネート加工した楽譜を活用し、書いたり消したりしながら話し合い、表現意図の実現を図ることができるようにする。(歌唱、器楽、音楽づくり) ・リズムや強弱等の要素を操作し、思いをもって表現している児童を紹介することで、表現の工夫に対する考えを広げるようにする。(歌唱、器楽、音楽づくり) ・楽曲の特徴と自分の感じ方やイメージを結び付けて各変奏の特徴を短い言葉で表すことで伝え合いを活発にし、自分の聴き方を深めていくことができるようにする。(鑑賞)

「共有・共感」 聴き取ったことを共有する。感じ取ったことを共感する。	
見方	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律線をソプラノとアルトのパートの二人組で、それぞれが指で追いながら聴いたり歌ったりするように伝え、旋律の重なりを実感できるようにする。(歌唱、器楽) ・各変奏においての児童の意見を、聴き取ったことと感じ取ったことを整理した板書や音楽的根拠を問う発問、楽曲の聴取を通して確かめ合うようにする。(鑑賞)
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や旋律の上行下行、強弱、フレーズ、旋律の重なり方を根拠にした友達の表現の工夫のよさを、全体で歌うことで確かめ共感できるようにする。(歌唱) ・旋律の動きや転調などを根拠に、場面や心情を感じ取っている児童の意見を紹介し、再度楽曲を聴くことで、友達の考えに共感したり、新たな聴き方に気付いたりし、自分なりに聴き深めることができるようにする。(鑑賞) ・楽曲の特徴から捉えた自分の感じ方やイメージを短い言葉で表すことで、聴き深めることができるようにする。(鑑賞)

「比較」 聴き比べる。	
見方	<ul style="list-style-type: none"> ・材質の違う楽器を聴き比べることで、音色の違いを感じ取り、自分の思いにあった楽器を選ぶことができるようにする。(器楽、音楽づくり) ・既習曲の変奏曲を変奏から聴かせ元の楽曲が何かを考えるようにすることで、音楽を形づくっている要素の働きの変化に着目して変奏曲を聴くことができるようにする。(鑑賞) ・レガートとスタッカート旋律など、要素の働きが対照的な楽曲を聴き、その特徴を感じ取ることができるようにする。(鑑賞)
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・聴く視点を示し友達の演奏を聴き比べることで、友達の表現の工夫や演奏のよさを受け止め、自分の表現に生かすことができるようにする。(歌唱、器楽、音楽づくり) ・前時に録音した自己の演奏や、いくつかのグループの発表を聴き比べ、自己の思いを実現した演奏になっていたか考えることができるようにする。(歌唱、器楽、音楽づくり) ・レガートの旋律をスタッカートで演奏する、速度の速い曲を遅く演奏するなどして比較し、旋律の特徴や速度とそれらの働きが生み出すよさを感じ取って音楽表現したり聴いたりすることができるようにする。

「関連付け」 既習事項を現在の学習内容に活かす。	
見方	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱曲で学習した、音の重なり方（同じ旋律、違うリズムで重なる、同じリズムで重なる）による感じの違いについて想起し、他の楽曲の重なり方を確かめて音楽表現したり聴いたりすることができるようにする。（歌唱、器楽、鑑賞） ・器楽の学習の既習事項である主な旋律・副次的な旋律・和音・低音という役割について想起させ、主題の旋律や伴奏の動きに着目して聴くようにする。（鑑賞）
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・混声合唱の響きについて感じ取ったことを基に、声の重なり合う響きを聴いて歌うことができるようにする。（歌唱） ・既習の混声合唱の響きについて感じ取ったことを掲示することで、人物の心情と声の響きを関連付けることができるようにする。（鑑賞）

「見通し」 表現意図の実現や聴き深めるための過程を考える。	
見方	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムアンサンブルづくりの学習において、「徐々に増やす」、「徐々に減らす」、「問いと答え」、「リレー」、「カノン」など様々な重ね方を体験させ、それらを生かして音楽の構成を工夫できるようにする。（音楽づくり） ・合唱で学習した旋律の重なり方の違いをもとに、音の重なり方に着目させ、楽曲のよさを見付けることができるようにする。（鑑賞）
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの思いを歌で伝えるために、歌詞の内容、旋律の上行下行、強弱やフレーズ、旋律の重なりなど音楽を形づくっている要素の関わり合いとその働きが生み出すよさを、思考の流れに沿ったワークシートを手掛かりにして捉え、自分の思いやイメージと結び付けて表現を工夫できるようにする。（歌唱） ・前時の板書や題材全体を見通すことができる学習カードを用いることで、楽曲のよさを探るための過程を考えながら聴くことができるようにする。（鑑賞）

「振り返り」 学習成果を実感したり、次の学習へつなげたりする。	
見方	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴や感じ取ったことを書き込んだ拡大図形楽譜、ワークシート等を見ながら、旋律の特徴とその働きについて確かめ、楽曲の特徴に気付いたり、楽曲の構造を理解したりすることができるようにする。（歌唱、器楽、鑑賞） ・友達の発表から、音色、旋律、強弱などの表現方法のよさや工夫の仕方を見だし、自分たちの次時の音楽づくりに生かすことができるようにする。（音楽づくり）
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・声や音の出し方などを工夫して目指す音楽表現に近づくことができたか、学習カードに記入し、学習成果を実感できるようにする。（歌唱、器楽、音楽づくり） ・楽曲のよさや面白さについて紹介する例文を示し、題材を見通すことができるワークシートや板書をもとに、「音色、旋律、音の重なり」から二つ以上の言葉を使って記述したり発言したりするよう助言し、自分なりに聴き味わったことを振り返ることができるようにする。（鑑賞）

「体を動かす」 感じ取ったことを体の動きで表す。	
見方	<ul style="list-style-type: none"> ・リトミックスカーフやテニスボールなどを使用して聴き取った音楽に合わせて動くようにすることで、楽曲のリズムや旋律の動き、強弱や反復、変化など音楽を形づくっている要素の働きをより強く感じ取ることができるようにする。 ・旋律に合わせてリトミックスカーフを動かす活動を取り入れ、旋律の変化を感じ取ることができるようにする。（歌唱、器楽、鑑賞） ・音価やリズムに合わせて手拍子を打つ、ジャンプするなどして体を動かし、持続する長さやリズムの特徴を体感することができるようにする。

考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きや重なりに合わせて体を動かし、どのように音楽表現するかについて思いをもつことができるようにする。(歌唱、器楽、音楽づくり) ・音楽的な見方で捉えた楽曲全体を体の動きで表し、楽曲の構造を理解して聴いたり、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いたりするようにする。(鑑賞)
-----	---

「視覚的な情報」 視覚的な情報で理解する。	
見方	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律を図形譜で示し、音の高さや動き、長さ、音型の違いを理解できるようにする。 ・2つの旋律の楽譜をずらして掲示し、旋律が重なる「カノン」の構造を理解できるようにする。 ・旋律の特徴とその働きを確認できるように、図形楽譜を示す。
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫について付箋を使って伝え合うことで、自分たちの思いや意図に合う演奏の実現に向けて繰り返し試すことができるようにする。(歌唱・器楽・音楽づくり) ・楽曲の特徴を、グループごとにタブレット端末に入力させ、それをプロジェクターで映し、楽曲の特徴の捉え方の相違を確認できるようにすることで友達の聴き方に共感し、新たなイメージをもち聴くことができるようにする。(鑑賞) ・我が国や諸外国の音楽について、楽器や演奏の様子などの映像資料を提示し、生活や文化などとの関わりについて考えをもつことができるようにする。(鑑賞)

「課題意識」 課題解決への意識を持続する。	
見方	<ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、旋律、音階、反復などの音楽を形づくっている要素とその働きに着目して、お囃子の特徴を感じ取ることができるようにする。(音楽づくり、鑑賞) ・題材を通して学習課題を常に自分ごととし、楽曲のよさや面白さを味わって聴き深めることができるように、「作曲家が使った変奏の仕掛けを見付ける」という課題を設定する。(鑑賞)
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・お囃子の特徴を感じ取りながら、音とリズム・パターンを組み合わせ、自分の思いや意図をもって旋律をつくることができるようにする。(音楽づくり) ・表したい感情やイメージと旋律の特徴を示した拡大図形楽譜を見ながら音楽表現を工夫し、課題意識を持続できるようにする。(歌唱、器楽) ・「楽曲のおもしろさのひみつをさぐろう」という学習課題を設定し、音楽の諸要素の働きと自己の感情やイメージを関連付けることで、楽曲の魅力を探る学習に対する意識を最後まで持続させて自分なりに聴き深めることができるようにする。(鑑賞)

「試行」 思いや意図に合った表現方法を試す。	
見方	<ul style="list-style-type: none"> ・声の抑揚や高さ、リズム、言い方等を変化させた表現方法を試行することで、思いや意図に合った表現を見いだすことができるようにする。(音楽づくり) ・3パートのリズム・パターンの重ね方について、全てのパートのリズムが聴き取りやすい表現にするために、リズムや音色、強弱、音の重なりをどのように表すと思いに合った表現になるか音で試行させるようにする。(器楽、音楽づくり)
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ラミネート加工した楽譜に、一番盛り上げて歌いたい部分に向かってどのような息遣いや発音で歌うかなど思いや意図を実現するために必要な音楽の要素や演奏の仕方を記入し、演奏して試すようにすることで、自分たちの思いや意図を音楽で表現できるようにする。(歌唱・器楽) ・他のグループの演奏の表現の工夫のよさや面白さに気づき、全体で演奏し試すことで、それらを自分たちの音楽表現に活かし、さらに思いや意図に合った表現を実現できるようにする。(歌唱・器楽・音楽づくり)

VI 研究の成果

児童が主体的に音楽と関わるができるようにするために、児童が音楽的な「見方・考え方」を十分に働かせて学びを深めるための指導方法について、実践研究を通して研究を進めてきた。そして、基礎研究で明らかになった課題を基に、「音楽的な見方・考え方」を働かせるために必要な手だてを「まなびのたね10」として整理し、必要な学習場面で手だてを活用することについての検証を重ねた。研究の成果は以下の通りである。

- ・児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせながら学習を進めることができる学習場面の工夫をしたことで、児童の思考の流れに沿った授業を展開することができた。
- ・「音楽的な見方・考え方」を働かせる手だて「まなびのたね10」を、児童の学びのプロセスに沿って必要に応じ設定したことで、児童が常に学習課題を自分ごととして捉え、課題意識をもち続けて学習に取り組めるようになった。それが、思いや意図を生かして表現したり聴き深めたりするという、児童にとって価値ある学びの実現につながった。
- ・「まなびのたね10」の有用性について、低・中・高学年の全領域で検証授業を行うことができ、その成果を具体的な事例として一覧にまとめることができた。

VII 今後の課題

必要な学習場面で必要な手だてを講じる指導方法について、今後さらに研究を深めていく必要がある課題は以下の通りである。

- ・「音楽的な見方・考え方」を働かせる手だて「まなびのたね10」を意図的に関わらせた場合の効果的な活用方法についても実践を重ねることで、「まなびのたね10」の精度を上げていくこと。
- ・児童の発達段階に応じた学習の連続性を考慮した「まなびのたね10」の活用方法について検証を重ねていくこと。
- ・「音楽的な見方・考え方」と現行学習指導要領での〔共通事項〕との関係性をさらに研究していくこと。

平成28年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 音 楽

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立お茶の水小学校	主任教諭	藤 来 愛
世田谷区立希望丘小学校	主任教諭	佐々木 睦
荒川区立尾久第六小学校	主任教諭	○井 上 奈々
練馬区立中村西小学校	主任教諭	◎荻 野 靖子
調布市立緑ヶ丘小学校	主任教諭	鎌 田 夏実
町田市立南つくし野小学校	主任教諭	澁 澤 宏美
小平市立小平第七小学校	主任教諭	小 室 有香
福生市立福生第三小学校	主任教諭	辻 周

◎世話人 ○副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 小野 憲明

平成28年度

教育研究員研究報告書
小学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 株式会社オゾニックス